



# 地域づくり研修交流会に参加してみよう

来る11月11日(土)12日にかけて、南部広域圏市町村組合主催の地域づくり研修交流会が開催されます。沖地ネットも後援しているのですが、この研修交流会について、主催者側担当の賀数さんにお話を伺いました。

今回の研修交流会は非常に大がかりなものです。開催を計画したきっかけは？

第二十三回地域づくり団体全国研修交流会の開催を契機に、第三次南部広域圏行政圏計画に位置づけられた施策の展開と関連させ、平成十六年度から本年度までの三カ年計画で、当事業を実施するものであります。

立案に当たって苦労したこと、工夫したことは？

まず、ワーキンググループ(南城市・南風原町・与那原町・八重瀬町)を設置し、これまで実施した事業の反省点等を踏まえ、関係市町村の意見等を取り入れ、各分科会プログラムの企画から実施までを担当していただいた所ですね。また、各分科会のPRしたいことや、これから市町村で取り組んでいきたい事等を含め入れてもらいました。地域外からは知る事のできない充実した内容になっていると思います。

苦労した点については、広報のやり方、募集告知の効果的な方法等、どのようにすれば参加意欲を高めて多くの方に伝える事

ができるだろうか？という所です。

この研修交流会に期待することはありますか？

事業の目的にもあるのですが、地域の魅力ある資源を地域づくりに活用し、圏域一体となった地域振興を推進するため、圏域住民に地域資源に触れる機会を提供すること。それにより、ふるさとへの愛着と誇りを再認識するとともに、圏域に対する連帯意識を醸成し、地域間交流及び地域づくりへの主体的な参加促進を図ることを期待します。

この研修交流会から最大の成果を持ち帰るために、参加する方々へアドバイスをお願いします。

地域にある様々な地域資源を有効に活用し、地域内外の方々と一緒に多くの事を見て、触れて、食する事で関心を高め、また交流を深めていただけたらと思います。参加されている皆さんの中には、「私の町には観光資源が無い」と感じている方もいるかもしれません。しかし、普段では当たり前と思っていた所も角度を変えてみれば素晴らしい観光資源に出会えるかもしれません。その探し方、見方をこの地域間交流事業「なんぶ再発見！地域づくり研修交流会」で一緒に学びましょう。

南部広域圏市町村圏事務組合主催

## 「なんぶ再発見！地域づくり研修交流会」

開催期日：平成18年11月11日(土)～11月12日(日)

メイン会場：ホテルサンライズ知念

第1分科会	「神々と琉球王朝のロマンをたずねて」	南城市・与那原町
第2分科会	「親子でカボッチャマンに会いに行こう」	南風原町
第3分科会	「地域資源の活用と展望を探る」	八重瀬町

### 参加資格

南部広域圏(浦添市、那覇市、糸満市、豊見城市、南城市、南風原町、与那原町、八重瀬町、久米島町、粟国村、渡名喜村、座間味村、渡嘉敷村、南大東村、北大東村)に在住あるいは勤務先のある方

その他 定員になり次第締め切り

### 申し込み・問い合わせ先

南部広域圏市町村圏事務組合  
〒900-0029 那覇市旭町116番地30(自治会館2階)  
(http://www.town.yaese.okinawa.jp/)

### 編集後記

\*「わんからやー」の発行がだんだん遅れてきています。心苦しく思っています。何とかしなければ。  
\*「わんからやー」を綴じて保管しているが綴じ代をもう少し広くしてほしいとのご要望がありました。保存していただけるなんてうれしいですね。ありがとうございます。綴じ代を2cmにしてみました。これでよろしいでしょうか？

発行  
沖縄県地域づくりネットワーク  
〒902-0073 那覇市上間338番地  
TEL098-836-2905 FAX 098-833-8552

### 「人」の元気が「地域」の元気

## 第十四回地域づくり団体全国研修交流会 愛知大会開催されます

十一月十日(金)～十一日(土)にかけて、名古屋市とその周辺の都市において全国研修交流会が開催されます。沖地ネットは、民間七団体、行政等一団体、個人参加二名、総勢十八名の参加が見込まれています。愛知大会の分科会の一覧と沖地からの参加状況をお知らせします。

行けないけど興味があるという人は、おみやげ話を聞かせてもらってはいかがでしょうか。

### 愛知大会参加団体 (10月13日現在)

沖縄県企画部 地域・離島課	2名
*NPO豊見城市まちづくりの会	1名
伊ガシヤ-まちづくり市民の会	3名
*まちづくり・てだこ市民会議	2名
*NPO法人コミュニティおきなわ	2名
薬草・ハーブ文化を育む会	2名
かりゆし塾同窓会	1名
*NPO法人おきなわ環境クラブ	1名
個人参加	2名
沖地ネット事務局	1名
地域づくりコーディネーター	1名
計	18名

(\*印は、参加助成金支給団体)

### 事務局からのお願い

\*負担金の納入について  
十月十三日現在で行政三十二団体、民間二十五団体からの納入がありました。ありがとございます。しかし残念なことに、まだ二十七団体が未納となっています。沖地ネットの活動は皆様の負担金で運営されていますので、それぞれの事情はあるかと思いますが、早めの納入をお願いいたします。

### \*団体プロフィール 確認について

沖地ネット入会時に提出していただいた団体プロフィールは、全国地域づくり団体協議会ならびに沖地ネットのホームページに団体の紹介として利用されています。団体の活動の進展とともに、内容が実際にあわなくなっているケースが多々あると思われまますので、確認をお願いすることになりました。詳細は事務局からの文書をご覧いただくとして、お忙しいとは思いますが、ご協力宜しくお願いいたします。

よい作物を育てるためには、よい土づくりから始めなければなりません。



「ジャーガル」って？ ジャーガルとは沖縄の方言で、肥沃な土である泥灰岩土壌を意味します。「鏡波の清水を産湯に浴びた ジャーガル育ち」は、情けにあつい...と豊見城音頭にも謳われているように、豊見城市の土地の大部分はジャーガルで形成されており、マンゴーや葉野菜などの農業が盛んです。

### 会員紹介 その3

## 豊見城市のまちづくりを応援する ジャーガル塾

同じように、よい地域づくりも、地域に根ざし、地域に夢を持ち、自ら参加する人づくりから始めなければならぬ。ここでは、地域づくり・人づくりの土台となるべく、私たちの団体を「ジャーガル塾」と名づけました。 ジャーガル塾の設立 平成元年に自治省により『ふるさと創生』が提唱され、豊見城市では『みどり豊かなふるさとづくり』を目標に、人材育成事業、産業文化振興事業、グリーンシティ事業など、様々な事業に取り組んできました。しかし、これまでの事業には指針がなく、目的や効果が明確でないまま事業を行ってきたという感が否めませんでした。 これからの地域づくりは、これまでの官主導か



ら民主導で、市民のスタンスを明確にしたものでなければなりません。日常接する自分の地域が他から与えられた借り物ではつまらない。そこに自ら参加し、工夫を重ねて手作りの地域づくりができるなら、そこに愛着も生まれ、地域の問題を自分の問題として捉えることができるのではないのでしょうか。そこで、市民の立場に立った地域の問題研究、リーダーの発掘育成、活用を目的として平成七年に「ジャーガル塾」が設立されました。テーマごとにいくつかの子塾も誕生し、現在も『ハリー由来まつり』を実施するなど、独自の活動をしているグループもあります。

『まちづくり支援事業』は、まちづくりを行って

現在のジャーガル塾の主な活動としては、『まちづくり支援事業』があります。これは、まちづくりに寄与する活動を行っている団体に助成を行う事業です。それにより、行政と市民の協働による魅力的なまちの創造を推進しています。



### これからの展望

「沖縄シヨん万次郎会」、市内に埋もれた文化を発掘し、復元、復活させることにより地域文化の振興を図る『ハリー由来まつり実行委員会』の四団体が助成を受けました。

これからジャーガル塾は、この『まちづくり支援事業』と並んで豊見城市内のまちづくり団体のネットワークの形成を図り、行政と協働（パートナーシップ）によるまちづくりを推進していきたいと考えています。

（豊見城市 企画部企画振興室 金城 裕樹）

ジャーガル塾 連絡先 〒901-0292 豊見城市字翁長854-1 豊見城市企画部企画振興室 Tel 098-850-0246 Fax 098-850-5343



### 岩にハマって日光浴...ヒメジャコ

海中の岩の上に、青や緑の花びらを咲かせる私。ここは私の大事なパートナー・共生藻が居候する外套膜です。お天気の日には膜を目一杯広げれば、藻類が光合成してくれるので、私も自然にお腹いっぱい。透明度の高いきれいな海で、何とも平和な暮らしです。波で動かないようしっかり岩にハマっているの、無理に引っ張り出そうとはしないでね。（文・写真：鹿谷麻夕）

海のつばやき：その3

### アドバイザー派遣 File 003

主催：西原町役場 産業課

## 第1回 じゃーとーNishihara Makers Party アドバイザー 豊川 あさみ

### 交流会企画の意図

このたび西原町では、八月三十日（水）に西原町役場・西原町商工会青年部・JAおきなわ西原支店の職員有志を集め、意見交換・情報交換の機会をつくることで行政と民間の交流の機会をつくり、ゆくゆくは互いの組織を超えた活動のできる団体を目指すことを目的として、「第一回 じゃーとーNishihara Makers Party」と題し、交流会を行いました。



にあたり、事前にそれぞれの代表者で話し合いを持ったのですが、いずれはこの集まりをきっかけにして何か形をつくりたい、そのためにはせつかくの交流会を意味のあるものにしたかったので、交流会を始めるにあたり参加者に刺激を与えてくれるようなまちづくりのスペシャリスト、豊川あさみさんに講演をしていただくことを決めました。 さて交流会は？

交流会は、第一部が豊川さんの講演、第二部が懇親会の二部構成で行いました。

参加者は三団体合わせて約四十名。準備段階では三十名ほどを見込んでいましたが、用意していた



た席がほぼ埋まるほどの方に参加していただきました。

### 豊川さんのお話

講演の中で豊川さんは、地域資源の見つけ方、まちづくりをしていく中で、自分の見方や心構えなどを、自身の体験をもとに話し、自身の作った鍾乳洞の酒蔵、オリジナルの豆腐のようなものを開発した経緯で感じたこと、学んだことを丁寧な言葉で交え、熱く熱く語られました。

豊川さんはもともと商人ということもあり、その部分は商工会メンバーにとって大変参考になるものであったと思います。また彼女は、まちづくりのスペシャリストでもあ

りますので、まちづくりの観点から役場やJAの職員の立場に立ったアドバイザーにも触れ、またときには「行政主導ではまちづくりはなかなかうまくいかない。地域の企業・住民が中心となるまちづくりが本当の意味のまちづくりだ」と役場職員にとっては少し耳の痛い話も出てきました。

### 交流会は大盛況

講演終了後には商工会員のお店にお願いした料理や西原のお酒を交えながら懇親会を開き、豊川さんにも時間の許す限り参加していただきました。豊川さんの持つ熱い気持ちや、終始豊川さんの周りに人だかりができ、質問をぶつけたり意見を交換したりしていました。また、時間がたつにつれ、それぞれの団体を越えた



交流があちこちで見られるようになり、予想をはるかに上回る盛り上がりを見せ、豊川さんも予定より遅くまで残っていた。たくさんの方々が参加者と交流を持っていただきました。

### 交流会から得たもの

事前の準備段階では、交流会自体が手探り状態のスタートでありましたが、豊川さんの講演をみながら拝聴することで、この集まりによるまちづくりの可能性を感じることで、会の方向性のヒントを与えられたように

### これからの課題

かじりだしの集まりでまとまりもまだ大いですが、まずは豊川さんのお力添えですばらしいスタートを切ることができました。この機会を第2回・第3回へとつなげ、この集まりを継続性と実行力のある団体にしていきたい、それがこれからの課題であり、目標になります。

（西原町役場産業課 与那覇 道）

